

諫早市に本社を構えるジスコ不動産株式会社。創業者の徳永耕一社長は、昨年8月～11月に激動の社史に個人史を重ね、自ら筆を執った「奇跡はある」を長崎新聞に広告企画として連載した。今年3月に創業40周年を迎え、新たに設立した「ジスコ子ども支援株式会社」のことや、その後の出来事を続編として描いていく。

続・奇跡はある

(01)

題字・林田八郎

徳永 耕一

「創立四十周年記念式典」

四十周年記念式典の会場入口でお待ちしていると、家主様やお取引先様やお世話になった方々の懐かしい顔、顔…「いらっしゃいませ」、「こんにちは」…。

コロナのせいで延び延びになっていた「創立四十周年記念式典」は、二〇二一年十一月十九日午後五時、ようやく幕を開けた。

一年前から当社経理部長の前田久子を中心に、社員が各係に分かれて、「これはどうだろうか。いや、あれがいい」などと手探りで、そして手作りで、準備は進められてきた。(記念誌係、ビデオ係、式典係、来賓係、記念品係…)

そしてついにその日が来たのだ。式典は、当初は社員が私の誕生日の十月二日に設定してくれたが、なかなかコロナ収束のめどが立たず、結局、決算期末ギリギリの十一月十九日に延期することとなった。



40周年記念式典での集合写真



ジスコ不動産株式会社
ジスコホテル株式会社
ジスコ子ども支援株式会社

長崎県諫早市永昌町4-26
| TEL | 0957-27-1112 | FAX | 0957-26-1777

「その頃には何とかコロナも下火になっていてほしい」社員一同、祈るような気持ちだった。

私たちの祈りが通じたのか、十月末にかけてコロナは急速に下火になり、幸運にも十一月半ば頃には世間的にも集会が許されるような雰囲気になっていた。

その後、二〇二二年に入って再びコロナが蔓延したことを思うと、このタイミングで実施できたことは、「奇跡はある」とまでは言わないが、非常にラッキーなことだった。式典は、長らくその類いの集まりがなかったため、皆様にも新鮮さを持って迎えられた。

余興には、YouTubeを見て印象に残っていた少女歌手、東あきさんに白羽の矢を立てた。何のつてもなく、思い切っで直接事務所に電話をしたところ、予想に反して出演を即決で承諾してくれた。

東あきさんの珍しいヨーデルや、若くてフレッシュな歌声は、会場の雰囲気や和ませ、盛り上げてくれた。食事中の諫早文響楽団の室内楽演奏も、上品で落ち着いた雰囲気を出してくれて、成功だった。

ただひとつ、式典の最後に私が飛び入りで歌った「マイウェイ」は余計だったが…。

「創立四十周年記念式典」が終わった直後、私は京都へ向かった。自分史「奇跡はある」を書く大きなきっかけにもなった親友の木下和之に、報告を兼ねて会ったためである。

〈次回9月28日掲載予定〉